

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	(株) イクロス		
事業所名(ユニット名)	グループホーム パル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	令和 元年 9月 26日	評価結果市町村受理日	令和元年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和 元年 11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居年数が長く年齢を重ねられた方や、元々高齢で入居された方など、皆様が年を重ねていく中で、一日一日を安心して暮らし過ごしていける為に、職員一同努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に笑顔で過ごそう」との理念のもと、すべての職員は、時には入居者の笑顔に励まされながら、笑顔を引き出す対応に工夫を凝らしているが、まだまだ十分ではないとの思いがあり、入居者と職員の双方に笑顔が絶えない生活の実現に向けての取り組みを一段と強めている。
医療や健康管理の面では、かかりつけ医・訪問看護師との密な連携により、適切な医療及び看護が受けられる体制にあることから、入居者及び家族等に不安はない。
地域との関係では、事業所が災害時の避難場所の指定を町から受けており、必要物品を十分に備蓄している。また運営推進会議に出席した町の代表や自治会の回覧板から、地域の行事等の情報を得て、積極的に入居者共々参加する等地域の一人としての繋がりを重視している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に、日々の介護の中で意識しながら、支援できるよう努力している	事業所内に掲げる理念は、法人の理念とは別に、職員間での検討を経てつくり上げた独自のものである。また年度毎に理念の実践に直結する目標を定め、管理者と職員は理念及び目標を共有し、進捗状況を評価しながら、入居者の日々の暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の敬老会や町内会夏祭りなどに参加させて頂き、交流できるようにしている	長期の利用が重度化に繋がっており、頻繁に交流を持つことは難しくなっているが、買い物や地域の行事等の機会を逃さず、積極的に参加している。また事業所での定期的認知症カフェの開催は、地域の方々との交流の格好の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェなど開催し、地域とつながりを持てるよう努力し発信につなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常や支援内容などすべて報告し、意見を伺い活かすようにしている	2月に1回の会議には、入居者家族等・町の代表・町職員・包括センター職員が出席し、事業所で取り組んでいるサービスの内容や入居者の暮らしぶりを詳細に報告した後話し合いを行っている。運営推進会議は意見交換の場であると共に、地域の行事等の情報が得られる貴重な機会でもあり、それらを事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告する事例は伝え、信頼関係を築くよう努力している	町担当者及び包括センター職員の運営推進会議への出席、包括センター職員を招いての研修の実施、介護相談員の定期的訪問、加えて代表者が役所に直接に出向く等の機会を通して、事業所のサービスへの取り組みを積極的に伝えながら助言を得る等、双方向の協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、議事録は全職員が閲覧し、日頃より意識しながらケアに取り組んでいる	事業所内及び外部での研修の受講により、代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関やエレベーターの施錠は基本的に行っていない。特に言葉による拘束は生じやすいことから、すべての職員は各自の振り返り及び相互の確認を怠ることなく、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年外部からの講師による研修を受け、学び、職員同士も意識しながらケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、知識を深め必要性に応じ、関係機関と連携を取り、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の段階において、十分な説明を行い納得してから契約させて頂き、改定等に対しても同じようにし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見や要望を表せるよう配慮し、介護相談員の訪問も受け機会を設けている	職員は話しやすい雰囲気づくりに努めており、入居者や家族等から日々の暮らしの中や面会時、事業所からの電話連絡の際等に意見・要望を聞き取り、運営に反映させている。介護相談員の訪問及び運営推進会議への参加もまた意見・要望を表明する良い機会である。加えて外部の機関を利用することもできる旨を契約時に文書で説明すると共に、事業所内に掲示して周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中などでも職員の意見や提案を聞けるよう努力し、必要であれば話し合いを持ち反映できるよう努めている	会議や個別面談の場に限定されず、職員は随時意見・提案を出しており、話し合いを経てそれらを運営に反映させている。物品等の購入についても、職員の提案を受け、管理者から代表者に上申することで実現に繋げており、一例として浮腫に対応する為の足置き台を購入し、活躍中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップを出来るシステムを設けながら、個々のレベルアップに協力し、向上心をもてるような職場になるよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を把握し、外部研修などに参加できるよう配慮し、社内研修にも参加してもらいスキルアップにつながるよう努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加などで、交流の機会を設け、その際に習得した情報・意見などサービスの質の向上の為取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階より、本人からの明確な要望を聞く事は難しい場合が多い為、家族からの要望などを聞き、周りからも情報収集を行い、本人の安心を考えた関係を作れるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の事を考慮した上で、家族の不安や要望を聞き、家族にも安心して頂けるような信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な情報を収集し、本人の状態も確認、見極め本人と家族が必要としている支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の状態に合わせ対応し、本人本位の生活を送れ、共に生活しているのを感じて頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも各々事情があり、難しい面もあるが、利用者様と家族の絆を大切に思い、共に利用者様を支える関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の高齢化もあり、難しい場合が増えてきているが、出来る限り関係が途切れないよう支援するように努めている	家族等による正月やお盆の外泊、受診や外食の為の外出等がなされており、併設する事業所を利用する知人との交流も見られる。馴染みの人や場との関係継続は入居者の生活に欠かせないとの思いをすべての職員が共有しながら支援に努めており、定期に発行するバル白浜だよりもその役割を果たしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々感情の変化や、一人一人の性格や個性を把握し、利用者同士が関わり、支え合えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、利用者が亡くなる場合が多い為、その後の関係は自然と薄れてしまう。偶然出会って挨拶する程度となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を理解できるよう努力する事で、自己決定の場を設けるようにし、可能な限り、本人本位の暮らしができるよう努めている	本人や家族等からの直接の聞き取り、関係者からの情報、事業所での入居者本人の暮らしぶり等から総合的に把握しており、センター方式を部分的に活用している。自己決定しやすい場面づくりを、思いや意向の把握の基本とするが、困難な場合も多く、職員の気付き等を持ち寄り、できるだけ本人の視点に立って検討することで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人から情報を集められるようにし、家族やケアマネージャーや関係者からの情報収集によって把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の生活を通して、過ごし方や心身状態、有する能力の変化に注意し、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の状態を見ながら、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人本位の暮らしが出来るよう現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族等の意向の確認、職員間での検討を通しての意見の集約、課題の抽出、目標達成への支援方法の策定という一連の作業を行うと共に、医療面での医師・訪問看護師の意見をも反映した介護計画の作成である。モニタリングに基づく評価を計画の更新や変更につけており、現状に即したきめ細かな介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別記録の記入を行い、職員間で気づきを大切にし情報を共有し、介護計画の見直しに活かし実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生じる本人のニーズに対応し必要に応じた支援を行い、柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折、ボランティアに訪問してもらい、違う雰囲気を感じてもらったり、各々の能力に合わせた避難方法や経路を知る事で、安心した暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や往診対応で適切な医療が受けられるよう支援している	本人及び家族等の希望により、提携医の往診を受ける入居者がほとんどであるが、家族等の同伴で、入居前のかかりつけ医に継続して受診する入居者もある。他の医療機関へは基本的に職員が同行しての受診である。医師への情報提供は主として口頭で行っている。かかりつけ医及び訪問看護師との連携を密にし、入居者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の変化する心身の状態や気づきを訪問看護師に伝え、助言又は医師との連携で適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるよう心掛け、退院後も本人が元通りに生活できるよう訪問看護師や往診の医師に連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人との話し合いは出来ていないが、家族には入所時に説明させて頂き、重度化した際には、家族・医師必要な方々とカンファレンスを行い、チームケアに取り組んでいる	看取りまでの利用の希望が多いことから、契約時に看取り指針の説明をすると共に、段階毎に入居者・家族等から方針の確認を行っている。必要に応じて医師を交えて話し合う等マニュアルに則った支援に取り組んでおり、昨年は1名、一昨年には4名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	白浜消防署救急救命士の指導のもと、必ず年一回の訓練と緊急時の対応に関する研修を行い、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	白浜消防署立会いのもと、訓練を行い、利用者にも参加して頂き、力に応じた避難方法や経路を確認している。家族との協力体制も築くよう努めている	避難訓練は昼間及び夜間を想定し、年2回行っており、入居者と職員が一緒に参加しての実施である。事業所は地域の避難場所の指定を受けていることから、必要物品は十分に備蓄している。また火災報知器の業者が立ち合っの訓練も行う等不測の事態に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格に配慮した声掛けや対応を行い、尊厳を保ち、プライバシーを損ねることのないよう注意している	呼称には姓を用いることを事業所の統一方針としている。入居者一人ひとりの尊厳を守り、馴れ合いを防ぐ為である。また個人の情報は、必要時以外は口外せず、文書等は施錠できる場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定して頂けるような対応を心掛け、思いを表出できない利用者には表情などに注意し、可能な限り自己決定に近い支援になるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先する時もあるが、可能な限り、本人のペースを大切に、本人に合わせた一日を過ごすことができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	限られた中ではあるが本人に選んで頂き、おしゃれになるよう支援し、難しい方には家族様が用意して下さったものや似合うものを選ぶよう配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものを献立に取り入れることで、食事を楽しんで下さっていると思われるが、準備などは一緒にして頂く事が難しくなっている為、機会が減っている	職員は入居者の日頃の言動から、一人ひとりの好みを把握しており、うまく取り合わせた献立づくりを行っている。一連の作業への参加は限られているが、肉等の購入に際してはドライブを兼ねて職員と一緒に出かけられることもある。入居者と職員がテーブルを囲み、同じ食事を摂ることで、いっそうの盛り上がりが見られる。折々に出かける外食の場面では、入居者の食欲に職員は目を見張るばかりである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に、食事量や水分量を記録し、不足時には、好みのものや補助食品などで補うようにし、体調に合わせた食事の形態やメニューに変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に合わせた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の負担にならないように、可能な限り、トイレの排泄が行えるよう、個々の力や排泄パターンに応じた声掛けを行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、ほぼ2時間の間隔でトイレへの誘導を行っている。夜間の転倒を防ぐ為、ポータブルトイレの活用もありおむつやパッドを利用する際には、根拠を明確にすることで恒常化を防ぎ見直しに繋げている。ほぼ自立している入居者をお手本に、トイレでの排泄を堅持しながらの支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを取り入れたり、水分摂取量に注意したり、医師や訪問看護師に相談し、薬で調節し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を引いた大浴場は入浴の曜日や時間帯が決まっているが、個々のニーズや希望に合わせた支援を行っている	週3回の入浴を基本としているが、必要に応じての柔軟な対応である。シャワーキャリー等を活用して安全を確保すると共に、柚湯等の季節湯を実施することで、入浴が楽しいものとなっている。入浴を拒む場面は往々に見られるが、職員の工夫が功を奏し、入浴後の「笑顔」が寛ぎを物語っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースで過ごして頂き、夜間は各々の居室で休まれる、その際は室温や入眠状態に気を配り、安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬について職員は、ほぼ理解しており、個々の力に応じて支援を行い、症状の変化に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で利用者様の出来る事をして頂き、充実感や喜びを感じてもらえるよう支援し、季節の行事を取り入れ楽しんで頂けるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を見ながら、外出できる機会があれば支援している	入居者・職員双方にとって戸外にできることは、ストレスを発散し、五感刺激を得る貴重な機会であることから、天候や気温の頃合いを見て、園庭に椅子を持ち出す等で、日光浴をすることは日常的である。梅・桜等の季節の花木の鑑賞には弁当やお菓子持参で出かけ、地域の行事等にも、地域の方々の協力を得て積極的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多く、ほとんど所持されていない。本人の希望があれば少額を持って出掛けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたり、手紙を書こうとされる事が見受けられない。字を書ける方は機会があれば、手紙を書けるように促している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上難しい点があるが、利用者の居心地を考慮するよう努めている。季節感を感じて頂ける飾りつけも行っている	ホール内には、窓から眺められる風景や入居者同士の関係性を配慮して、テーブル・ソファ等が置かれ入居者は就寝時以外はホール内で過ごすことが多い。季節感のある飾り付けや行事の写真等を見て談笑したり、新聞や雑誌に見入る入居者の姿は居心地の良さの証と言える。改修したベランダから見える花火に入居者満面の「笑顔」である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のソファで自由に過ごして頂けるようにしている。テーブルも利用者の相性で居心地がよくなる工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのものを置いたり、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	入居者が使い慣れた馴染みの物を傍に置くことで、不安やダメージを軽減し、落ち着いてその人らしく過ごせる環境づくりがなされている。本人及び家族等の希望により畳を敷いた居室もある。また、居室は、内側からの施錠が可能であり、職員が居室を訪れる際には、必ず声掛けやノックを行う等プライバシーの保護にも十分注意が払われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事を理解し、力に応じた生活ができるよう工夫し、安全に過ごして頂けるよう努力している		